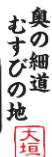


奥の細道むすびの地「大垣」 十六万市民投句

小中学生の部



令和七年二月度 入賞句一覧 投句数 千七百六十六句

特選

高木 恵理 選

ふきのとう力いっぱい根を張るよ

加茂郡川辺町

嶋崎

佑紀（中三）

「ふきのとう」は「蒨（ふき）の花」の蕾のことです。雪解けとともに、地表に顔を出す可愛らしい黄緑のふきのとうは、春の訪れを知らせてくれます。しかし、寒い冬の日には、ふきのとうは大地に地下茎や根を伸ばし、春が来るのを待っていたのです。作者も冬の間、しっかりと自分の力を伸ばしていたのでしょう。力強い生き様が俳句から見えてきます。

通学路雪でもぼくは半ズボン

大垣市

二村

そうた（小三）

今年も雪が何度も降りました。凍えるような冬の日には、多くの大人も子供も厚着をして、体を暖かくして過ごそうとします。それなのに、小学校三年生の作者は半ズボンなのです。驚きです。寒くないか、と声をかけたくなりますが、本人は至って平気なのでしょう。雪が降っても、ランドセルを背負って元氣よく登校する作者を応援したくなります。

けいとあむきれいにおはなつくれたよ

大垣市

おの

りんか（小二）

「毛糸あむ」が冬の季語ですね。高学年ぐらいになると、毛糸でマフラーなどを編めるようになるのかもしれませんが、ところが、作者はまだ小学校二年生。それでもすでにお花が編めるなんて、とても器用ですね。また、お花という言葉が、春を感じさせます。ピンクかな。水色かな。きれいな春の色も見えてきて、心が温かく楽しくなってくる俳句です。

秀逸

雪だるま家に帰るともういない

加茂郡川辺町

武田

菜々美（中三）

あにとぼくいつもにているかがみもち

大垣市

荒谷

桃我（小三）

雪かきののこった雪で雪合戦

大垣市

長谷

凜（小五）

雪だるまパパとおそろいサングラス

大垣市

近藤

結恵華（小五）

授業中雪がちらちらふってきた

大垣市

清水

虹心（小五）

しゃぼん玉風とじゃれ合い高くと飛ぶ

東京都足立区

西村

若菜（小六）

せつぶんでおにがきたのにまめがない

大垣市

なかむら

あやか（小二）

雪だるま顔がだんだんかわってく

大垣市

石田

あん（小六）

暗い中外に立ってるゆきだるま

大垣市

前田

瑞季（小六）

おさんぽ中パンジーたちとにらめっこ

大垣市

加藤

衣織（小五）

入選

雪だるまお腹のボタンが落ちちゃった

加茂郡川辺町

佐伯 陽弥（中二）

あぜ道で探して歩く霜柱

加茂郡川辺町

井澤 陸斗（中二）

雪がふり頭が白くそまつたよ

加茂郡川辺町

馬場 岳空（中三）

感傷に浸る間もなく冬の風

加茂郡川辺町

粕谷 晴希（中三）

ふゆざくらかぜにふかれてとんでいく

大垣市

松岡 采音（小二）

ふゆのつきほしもいつしよにひかつてる

大垣市

大倉 新太（小二）

おにはそと心の弱さやつつける

大垣市

佐藤 祐（小三）

ならんでるてつきんみたいつららたち

大垣市

坂下 椎己（小四）

初日の出いつもとちがうまぶしさだ

大垣市

澤田 健吾（小四）

かじかむ手ふらついているノートの字

大垣市

渡部 美響（小六）

金閣寺真つ赤に染まるもみじの木

大垣市

王 梓墨（小六）

ゆきだるまみんなでつくととおおきいよ

大垣市

てらかみ さくら（小二）

スシローのまぐろがおいしいまたこよう

大垣市

かわむら いおり（小二）

せつぶんでおにをたおすぞかてるかな

大垣市

森 みさき（小二）

もう一度雪ふらぬかと空を見る

大垣市

森 太一（小六）

すきま風必死で防ぐお姉ちゃん

大垣市

大橋 万葉（小六）

おんせんで冬のよぞらをながめてる

大垣市

野村 舞（小六）

ふでを持ち新年の文字書いてゆく

大垣市

堀江 りな（小五）

年賀状心をこめてよろしくね

大垣市

小坂 茅佐（小五）

ひらひらと春の花びらまい上がる

大垣市

早野 結菜（小五）

選者吟

ポケットにキヤラメル春の旅に出る

恵 理



小中学生の部